

もりしあ人

— 森がある幸せを伝えたい —



しまぬき きよみ
島貫 清美さん

米沢市出身、よねざわ昆虫館専門員
米沢織の織元で意匠デザイナーとして勤務。結婚・育児を経て平成20年4月から同館勤務。平成25年6月からやまがた緑民会議員

トンボ屋です

よねざわ昆虫館(米沢市築沢)にお勤めの島貫清美さん。チョウ、カミキリ、クワガタ、バッタなどなど「昆虫どうぶり」のお仕事ですが、さすが「虫が苦手な様子」は全くありません。昆虫の世界にはまって13年目。ぎっかけや森への想いをお聞きしました。

なぜ昆虫館へお勤めを?

娘が小学6年生のとき、夏休みの自由研究で「標本の作り方」を教わるため、ここに一緒に来たんです。当時の職員の方にいろいろ教えてもらっているうちに、私自身の眠っていた好奇心が湧いてきて館のお手伝いをするようになりました。その後、職員の方がお辞めになるときに後任に誘っていただきました。

「もともと昆虫は好きだったんですか?」

嫌いではありませんでした。でも一緒に学んでいくうちに、身近にいないのに知らないことがたくさんあることがわかりました。そうするともう図鑑にとらめつけです。そこに書いてある昆虫の知識がどんどん頭にたまってきます。面白くなると

森にとって昆虫は仲間

子どもたちの活動が多いですね。

お隣の三沢東部小学校の理科の授業で、森と昆虫の話をしたり、ヤマムシが成長する様子を観察したりしています。「落葉や朽木を分解してくれる昆虫は、森の大切な仲間なんだよ」と伝えていきます。また、フンの始末や水やりのタイミングなど自分たちで考えながら進める虫の飼育は、子どもたちがお互い協力してコミュニケーション力を培ううえで、とても大切な体験だと思っています。

ここでの体験が将来への種まきに

今後の活動に向けた思いは?

以前、標本づくり教室に来てくれた子が、その作品で「賞をとったよ」と報告にきてくれました。とても



昆虫への熱い想いを語る島貫さん

やまがたの森を未来に

フォトコンテスト 作品大募集!

「県民参加の森づくり活動」を広く知っていただきたく、森で活動する方々や子どもたちのいきいきとした表情などの写真を募集しています。奮って応募ください。

◆ 募集テーマ 「応援します!森づくり」部門
「わんぱく森キッズ」部門
「未来に残したい森里山文化」部門

◆ 応募期限 11月15日(金)まで「当日消印有効」

◆ 応募上の留意 県内にお住まいの方
応募は一人5点まで
作品は単写真でお願いします
規格はカラープリント4寸切
またはA4判カラー印刷とします

◆ 表彰 県知事賞 県森林協会賞、
審査員特別賞(各1点)
入選(数点)

◆ 副賞 コンパクトデジカメ

◆ 応募 99008570「住所記載不要」
問合せ先 山形県みどり自然課

TEL 0236-00022006

→ 詳しくは山形県HP
やまがたの森を未来に



想いをひとつに

平成25年9月14日(土)伝国の杜置賜文化ホール(米沢市)で「国民参加の森林づくりシンポジウム」が開かれました。これは、来年初に山形県遊学の森(金山町)で開催される第38回全国育樹祭のプレイベントとして行われたもので、県内外から400名が集い「森を活かし、森と生きる」をテーマに意見交換したものです。

第38回 全国育樹祭



平成26年秋季
「遊学の森」(金山町)で開催

参加した皆さんは、森を育て木を使うことの大切さを再確認し、来年の第38回全国育樹祭に向けて想いをひとつにしています。



自身の経験から「日本は世界でもまれな森林大国だが、恵まれた自然に気がつかず破壊している。森林を国民みんなで守ることを考える時期だ」と話されました。また、寺西俊二(橋大学院教授)からは、再生可能エネルギー利用の先進地であるオーストリアの事例と、豊かな森林資源を活かし地域経済の活性化と持続可能な発展の重要性について報告がありました。